

平成27年度「ふくしまの未来を担う高校生海外研修支援事業」実施報告書

県立福島高等学校・県立磐城高等学校・県立相馬高等学校

実施期間・参加人数・滞在都市・現地交流校について

実施期間： 平成27年7月15日（水）～26日（日）

参加人数： 20名（生徒17名、教員3名）

滞在都市： イギリス（ウエストサセックス、ケンブリッジ）

実施概要について

- ・ロンドン大学ユニバーシティカレッジにおける「ふくしま復興シンポジウム」での発表
- ・ケンブリッジ大学でのサイエンスワークショップへの参加



「ふくしま復興シンポジウム」発表後の質疑応答（ロンドン大学）



サイエンスワークショップ（ケンブリッジ大学） 最終プレゼンテーション（ケンブリッジ大学）

福島現状発信や現地におけるエネルギー学習について

ロンドン大学ユニバーシティカレッジにおいて、ふくしま復興シンポジウムが開催され、学生や一般市民など約 140 名が参加した。福島高校は「福島県の紹介、震災の被害と復興状況、復興に向けた自分たちの具体的活動」「原発事故に伴う外部被曝線量の測定調査の結果報告」、相馬高校は「津波や原発事故に伴う避難生活の現状や復興状況」、磐城高校は「沿岸部や内陸部の被害実態と復興に向けたいわき市の取り組み」について英語で発表した。福島の現状を報告するとともに、防災や新エネルギーのあり方について、ディスカッションが行われた。高校生に対して震災を経てエネルギーについてどう考えているか、代替エネルギーとしてどんなものが考えられるかなど質問が投げかけられ、意見を述べる中で各自がエネルギーについて考えを深めた。

また、ケンブリッジ大学においてサイエンスワークショップに参加し、①Chemistry: Hydrogels and Drug Delivery（薬の電荷によってゲルから血液への拡散速度がどのように違うのかについて調べる）、②Engineering: Compressor Blade Design（ジェットエンジンがどのように機能するのか学ぶ、飛行機の羽根のデザインを改良する）、③Plant Sciences: Exploring the Pyrenoid - Rubisco Immuno-localisation in Mutant Algae（遺伝子の発現がピレノイドの形成にどのような影響を与えるのかを明らかにする）、④Astronomy: Millisecond Pulsars（いかにして星は1秒に700回も回転するのかを調べる）、⑤Energy and Radiation: Fuel our Future（放射能は敵か味方かについて考える、メディアや世論における放射能について考える）、⑥Science Communication（日本語と英語の両方を使って高度な科学研究を上手に伝える）の6プロジェクトに分かれて研究を行った。研修最終日には各グループが有識者や各プロジェクトの指導者、またワークショップ参加者全員の前で研究内容についてプレゼンテーションを行い、その後質疑応答を経て、各自の考えを深めた。

実施後の成果について

語学学習やプレゼン指導、パークレイズ証券（東京）での発表など、事前研修を十分に行い、海外研修に臨んだ。はじめ不安もあったが、日を重ねるごとにコミュニケーション力は向上し、イギリスの高校生とも英語での会話が当然のように行われた。英語でのプレゼンテーションや質疑応答を通して、積極的に物事に取り組む姿勢が見られるようになった。また、震災から4年が経過し、自分たちの生活が落ち着きはじめたことにより震災や復興などに対する意識が少しずつ薄れはじめてきている中で、この発表を行うことで改めてかつグローバルな視点で福島の現状を考えさせられ、福島を世界に発信していきたい、福島の復興のために尽力したいと思うようになった生徒が多かった。

<最後に>

この日英サイエンスワークショップは2011年に始まりました。その後2012年、2013年にイギリスへ訪問、2014年には東北にイギリスの生徒や先生方を迎え、ワークショップは大成功を収めてきました。「ふくしまの未来を担う高校生海外研修支援事業」の多大なるご支援のおかげで、より多くの生徒が本事業に参加可能となりました。生徒の成長のための貴重な機会を与えていただきましたこと、心より感謝申し上げます。今後も福島と世界のネットワークを構築し、将来福島の国際化を担うグローバル人材の育成を目指して尽力していきます。